番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H29.9.26	市政懇談会	花南	建設部	都市政策課	花巻市の立地適正化計画の概要について	立地適正化計画の概要について伺いたい。	立地適正化計画とは、市民が日常生活をするうえでなくてはならない医療、福祉施設、生活サービス、商業施設、住居等がまちなかの一定の範囲内に立地するよう誘導し、維持、確保することを目的として策定したものである。また、その中の移動は徒歩、あるいは地域からまちなかへは公共交通により容易に行けるというまちづくりである。これは、国が推進する「コンパクト・プラス・ネットワーク」のための事業実施であり、国から支援を受けて、都市機能、居住の誘導を図る各種施策を行っている。立地適正化計画では、居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定することになっているが、居住誘導区域については、花巻地域では花巻駅周辺、石鳥谷地域では石鳥谷駅周辺を設定している。都市機能誘導区域は、花巻地域の花巻駅東側付近、花巻駅から約1キロの範囲内としており、居住誘導区域の中で必要な生活サービスを効率的に提供していくため、駅付近や交通の利便性が良い場所であることに配慮し医療、福祉、商業等の都市機能誘導施設を整備し誘導していこうとするエリアである。 具体的な事業については、花巻地域において、看護学校、保育所、特定生活介護施設を含む総合花巻病院移転整備事業や、生涯学園都市会館周辺を含む駅に近いエリアへの花巻図書館移転を検討している花巻図書館整備事業がある。また、地域生活基盤施設整備事業として、エセナ跡地の活用や、誠山跡地を活用した災害公営住宅整備等について現在事業を進めている。石鳥谷地域、大迫地域、東和地域においては宅地造成事業や道の駅関連の整備事業、東和コミュニティセンター整備事業、学校関係の改築、改修等を予定している。 その他、公共交通網の再編については今年6月に花巻市地域公共交通網形成計画で具体的な方針を定めた。花巻、大迫、石鳥谷、東和それぞれ4地区の拠点を結ぶ幹線路線バスは今後も維持するよう岩手県交通にもお願いしている。また、各地区内の路線バスのうち、今後維持していくことが困難な路線については、順次、当日予約に対応した予約応答型交通に移行していく予定で、既に石鳥谷地域で導入しており10月には東和地域でも導入する予定である。岩手県交通の路線バス廃止が予定されている他の地区も順次、予約応答型交通の検討を考えている。花巻地域の中央エリアについては市街地循環バスふくろう号が運行しているが、これについては現在1便から2便へ拡大することを検討している。
2	H29.9.26	市政懇談会	花南	建設部	建築住宅課	災害公営住宅の整備計画について	立地適正化計画に関連して災害公営住宅の整備計画について伺いたい。	災害公営住宅については、来年度工事を行う予定であり、沿岸で被災されて現在内陸に住んでいる方を対象に入居していただくというもので、2棟あわせて30戸を整備予定。建物の1階にはコンビニエンスストアの入店を予定しており、その他、子育て世帯を対象とした地域優良賃貸住宅も整備する計画である。また、エセナ跡地には芝生広場を整備する予定で、交流の場、あるいはくつろぎの場として利用していただけるように現在設計をしており、来年度の工事を予定している。花巻駅については、花巻駅の橋上化と東西の自由通路により駅の利便性を高め、東西交流を促進するため、橋上駅、東西自由通路設置の可能性についての調査をJRIに委託しようとしている。
3	H29.9.26	市政懇談会	花南	生涯学習部	生涯学習課	新花巻図書館の整備計画について	立地適正化計画に関連して新花巻図書館の整備計画について伺いたい。	現在の図書館は、元々市役所前にあったものを昭和46年に若葉町、花巻農業高校の跡地に移転したもののだが、閲覧コーナーが2階でありエレベーターもないことから、高齢者、障がい者の方が使いにくい。また、手狭になり老朽化してきたということで、建替えの必要性について以前から指摘されてきたことから、新花巻図書館整備基本構想を本年8月に策定し、8月28日に市民説明会を行った。 この構想は、あくまでバリアフリーや、郷土の先人を重点的に紹介する等、大まかな構想であり、具体的な図書館の移転場所や規模については今後検討予定。移転先は花巻駅から東側の区域を検討中であるが、中央図書館という位置づけもあるため、3地域からも行きやすく交通の利便性が良い高齢者でも行きやすい場所ということで、まなび学園周辺や花巻駅付近を建設場所として検討している。具体的にはこれから計画を進めながら、市民にもその内容を提示していきたい。来年度に基本計画を作り、その後に具体的な設計に入る予定。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H29.9.26	市政懇談会	花南	健康福祉部	地域医療対策室	総合花巻病院の整備計画について	立地適正化計画に関連して総合花巻病院の整備計画について伺いたい。	総合花巻病院の移転整備事業については、事業主体は総合花巻病院でありそれについて市が支援をしていくというものである。病院は6階建てを予定しており、病院の機能としては病床数が188で、現在の総合花巻病院とほぼ同規模。病院と同時に整備する特定生活介護施設は85室を整備予定で、これらを以前の厚生病院跡地に建設となる。道路を挟んだ向かいに看護学校を建設予定だが、こちらも現在と同じ120名の新定員で4階建ての建物となる。薬局があった場所は駐車場となり、現在の駐車場は保育所が建設される予定。保育所は1階建てで定員が54名で基本的には事業所内保育所のため病院勤務の方が対象となるが、うち15名は一般の方を対象とした地域枠を設けると伺っている。 病院の機能としては、急性期いわゆる救急も対応するが高度の救急患者については県立中部病院や岩手医大病院にお願いし、その後方支援をする形をとると伺っている。県立中部病院は入院10日程で退院しなければならぬことが多いが、その後を引き継ぐような病院をイメージしており、かかりつけ医の機能についても維持していくということ。建設工事については、現在、入札手続に入っており、本年12月以降に平成31年の10月末頃の完了を目指して工事に入ると伺っている。現在、総合花巻病院では、退院してすぐに自宅へ戻るのが困難な方や自宅療養しているが看病が大変な方等を受け入れる地域包括ケアに力を入れているが、これについても現在の26床から46床に増やすということも伺っている。
5	H29.9.26	市政懇談会	花南	建設部	都市政策課	リノベーションまちづくり事業について	リノベーションまちづくり事業について、その内容と目指すところを伺いたい。	リノベーションまちづくりについては、人口減少と増え続ける空き家・空き店舗の状況に対応し、民間主導、行政参加の考え方で、遊休不動産を活用して新たなサービス産業を創出することで空き物件を解消しながら、まちの再生を図る手法。これについては平成23年頃から、北九州市を中心に活動が始まり、全国の地方都市に拡大している。当市では平成26年に紫波町のオガールプロジェクトを推進する岡崎氏と市長との対話をきっかけに岡崎氏のアドバイスを受けながら、民間まちづくり会社の勉強会を開催し、その結果平成27年4月に、株式会社花巻家守舎が立ち上がっている。昨年2月には閉店していたマルカンデパートの大食堂を上町家守舎が復活し、リニューアルして大きな話題を集めた。当市としても上町等のまちなかを中心に、遊休不動産活用のための対策を推進する必要があると考えており、立地適正化計画の中にも都市機能誘導に向けた事業として、リノベーションまちづくり、遊休不動産を活用した小規模事業者の創出、雇用の創出といったものの考え方を盛り込んでいる。 リノベーションまちづくりの狙いは、今ある不動産や空間を巧みに活用する新しいビジネスを起こして、まちの利便性や集客性などエリアの価値をあげていくことにより、この動きを底堅いものにするを考えており、遊休不動産オーナーからの理解、協力を得ることや、新しいビジネスを担う若者を集めていくこと、事業を行いやすい環境づくりなど、当市としてできることを確実に実行していきたいと考えている。リノベーションまちづくりの特徴は、今あるものを活かして新しい使い方をしてみたいと考えていくことで収益性がありスピード感があるというのが一点、そして、民間主導でプロジェクトを起こして行政が支援するという補助金に出来るだけ頼らずプロジェクト事業そのものの経済合理性を追求していくところが特徴。一般的なリノベーションの事例は、旧マルカン百貨店のよう空き店舗を使って、食堂、雑貨店、カフェなどに改修して以前とは違った目的で利用していくというものや、元々倉庫だった場所を観光客向けのレストラン等に改修して違った目的で使用している函館のレンガ倉庫を考えていただければイメージが湧くと思う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
6	H29.9.26	市政懇談会	花南	建設部	都市政策課	市の施設への交通手段について	ふくろう号の現在利用率と巡回している範囲について伺う。ふくろう号が自宅周辺に巡回していないため、不便。新しくなった市の施設へ行くにも交通の手段が必要であると思うが。	<p>ふくろう号の1便あたりの利用人数は15人少々であり、花巻市内の路線バスと比較するとかなり利用されている。花南地域のふくろう号のルートは、滝ノ沢、中根子、石神町、桜木町、不動大橋、桜町で、1周するのに1時間弱かかる。利用人数が多い割には、便が少ないため、これを2便に増やすことを検討している。公共交通の考え方については、今ある路線バスが廃止になれば、その範囲内はデマンドバスとなる。各地域間を結ぶ幹線路線バスについては維持し、各地域内で岩手県交通の路線バスの維持が困難になった場合に代替えとしてデマンドバスを走らせるというのが基本的な考え方である。</p> <p>国が推進する「コンパクト・プラス・ネットワーク」は、花巻地域を中心にしてサービス拠点を持たせて、他の3地域とは路線バスでつなぐという考え方。市としては、花巻地域、大迫地域、石鳥谷地域、東和地域この4地域にそれぞれサービス拠点は維持していく考えである。そのうえで、国の考え方に沿って居住誘導区域になるべく人が住むようにしたり、人口が多くなり公共交通があり中心市街地になるような場所であるDID地区は都市機能誘導区域として、総合花巻病院の移転や図書館移転整備を行う。これについて、国から財政支援を受けるといえる。総合花巻病院移転については都市機能誘導区域のため、国からの財政支援が8億円程ある予定。また、花巻駅東側の衰えが激しいため花巻駅東側を都市機能誘導区域にして国の支援を得ながら市の施設を建てる考えだが、そうした場合は、その施設までの交通手段が当然問題になる。花巻地域と大迫、石鳥谷、東和地域3地域を結ぶ公共交通は絶対確保しなければならない。花巻市内のバス路線はほぼ岩手県交通が運営しているが、バス路線を縮小している状況にあるが、バス路線が廃止になった場合は、オンデマンド交通を考えている。ただし、国の見解では、バス路線がある場合は、路線が競合するため望ましくないとされている。オンデマンドバスは石鳥谷地域で既に運行しており、今年10月からは東和地域において運行する。大迫地域についても岩手県交通のバス路線が廃止される予定のため、来年からはオンデマンドバスを運行する必要がある。花巻地域については、石鳥谷から花南地区を通り北上市へ行く路線や、花巻温泉、花巻南温泉狭へ行くバス路線が残る見込みであり、太田地区への路線も残る可能性が高く、笹間、矢沢等は廃止の可能性がある。廃止される路線については、オンデマンドバスをやる必要があるが、国からの財政支援は得られないため、市すなわち市民の皆さんの負担が1億数千円程となる。それでも本当に移動手段がない人を救うためには、オンデマンド交通を続けなければいけないと考えている。花南地区はバス路線が続くのでオンデマンド交通は難しいということになる。そのような中でも移動手段がない場合は、福祉タクシー券を出すなどの対処も必要であると考えている。</p>
7	H29.9.26	市政懇談会	花南	健康福祉部	地域医療対策室	医師の確保について	医師の確保が急務だと思うが、花巻市の現状はどうか。	<p>岩手県全体が医師不足であり、総合花巻病院でも医師の確保に苦慮している。総合花巻病院では本年4月から県立中部病院を退職した医師が1名、非常勤として入った。岩手医大にも医師の要請をしているが、岩手医大自体も医師は少ない状況であり、非常に難しく、東北大学にも要請、また民間の紹介会社にもお願いしていると伺っている。国保連が医師の養成事業をしているが、その派遣先も県立病院や済生会病院となっているため、市としては国保連に対して総合花巻病院も医師の派遣先とするようお願いしているが、特に沿岸地域の医師が不足している状況であり、なかなか合意が得られない。新しい総合花巻病院が完成して、また必要性が高まった段階で、再度、国保連にはお願いしたいと考えている。</p> <p>医師の確保は先が読めない状況である。総合花巻病院についても医師の確保は厳しいが、医師の確保をしてから病院を建てようとするのは遅い。花巻の医療を守ることを考えれば、現在の総合花巻病院の病床150人程度では少ないと考えており、全く予断を許さない状況である。移転を進めながら医師の確保も進めていかざるを得ない。移転をきっかけに、医師の中でも総合花巻病院に興味を持ってくださる方もいると聞いており、少し状況は良くなっている。岩手医大に話を聞いたところ、弘前大学、秋田大学では学生が医師になると県外に出る人が多く、医師が大変不足しているとのこと。北東北の医師の状況は非常に厳しく、医師確保については余談を許さない状況。岩手県では、医学生に奨学金を払う代わりに県内で研修を受け、勤務してもらおうという制度があり、この制度の対象となる病院は、県立病院のため総合花巻病院は対象とはならないが、この制度により岩手県に残る医師は増えてきており成果はでてきているところ。</p> <p>岩手医大病院が移転予定の矢巾町と花巻市は距離も近いので、難しい患者は医大、医大を退院した方は総合花巻病院が引き受けることにより、岩手医大に総合花巻病院は大事であると認識していただく。そういう関係を構築していき、医師確保につなげていきたい。将来の花巻の医療を守るためには、岩手医大との関係を密にしていける必要があると考え、岩手医大の方とは頻繁にお会いしている。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H29.9.26	市政懇談会	花南	生涯学習部	生涯学習課	花巻図書館の移転先について	花巻図書館の移転先について、石鳥谷、東和、大迫にも図書館はあり、車を運転する高齢者も多いため、まちなかの狭い場所に作るのではなく、星ヶ丘等の花巻駅西側ではいかがか。	星ヶ丘には図書館を移転できるような広い場所はなく、また、駅から離れた場所になると建設について国からの支援が受けにくくなる。また、新花巻図書館は中央図書館の機能を持つことや、通学する高校生が学校帰りに寄りやすいこと、車のない高齢者などを考えると花巻駅に近い場所が良いと考えている。
9	H29.9.26	市政懇談会	花南	生涯学習部	生涯学習課	新花巻図書館の運営について	新花巻図書館の運営について、多賀城市のツタヤ図書館のようなものを考えているか。	新花巻図書館については、多賀城市のツタヤ図書館のような民営ではなく市職員を配置した図書館を考えている。多賀城市のツタヤ図書館はTSUTAYAが出店しているわけではなく、市が建設した図書館にTSUTAYAが入り、市がTSUTAYAに運営費を出して委託し、TSUTAYAが書店と図書館と一緒に運営しているものである。これについては、TSUTAYAが買わせたい図書を市に売り、それを貸し出ししているなどの批判もあるようだ。そのようなデメリットも含めて検討したうえで、当市の図書館運営を考えるが、基本的には市の職員を配置した図書館を考えている。 また、新しい図書館には、喫茶店や食事が出来る場所が欲しいという声もあり、これについても検討中である。また、TSUTAYA以外にも、民間で運営している図書館があるので、そういったところも研究していきたい。 ツタヤ図書館は、市が建設してTSUTAYAが運営をしているが、TSUTAYAの方が人件費が安いので、運営費は市で運営するよりも安いかもしれない。しかし、図書館は流行の書籍を置けばいいというのではないと考えている。例えば、宮澤賢治など郷土の先人の図書を集めるとか、市民の教養のための本を集めるといのは、TSUTAYAに委託しても上手いかないのではと考えている。
10	H29.9.26	市政懇談会	花南	建設部	建築住宅課	空き家を取り壊した場合の利子補給について	北上市では空き家の解体費用に係る借入金の利子補給をする制度があると聞いた。花巻市ではそのような考えはあるか。	現段階では検討していない。利子が低い状況が続中で利子補給を受けられることを理由に200万円から300万円程度要する取り壊し費用のために借り入れをする方は少ないと思われる。
11	H29.9.26	市政懇談会	花南	生涯学習部	スポーツ振興課	室内スポーツ施設の整備について	高齢者が楽しめるスポーツには、グランドゴルフやゲートボールがあるが、石鳥谷地域、東和地域には室内グラウンドがあるが花巻地域にはなく、冬期間にそういった運動を楽しむことができない。冬期間でも高齢者がスポーツを楽しめる室内施設を造ってほしい。 また、どの県にもある室内野球場が岩手県内にはないが、花巻市は岩手県の中心に位置しており、プロ野球が出来るような室内ドームを作れば花巻の活性化にもつながると思うが、いかがか。	室内スポーツ施設については、北上地区広域行政組合で北上市後藤野に造ることが決まっている。これは花巻市民も使えるので、ぜひ使っていただきたい。花巻地域にもそのような施設の必要性を感じているが、時期を考えなくてはならない。現在、市では総合花巻病院移転、図書館移転などでかなりの支出が予定されている。このような状況で新たに室内スポーツ施設を建設するのは財政的に難しく、少なくとも1、2年は様子を見る必要がある。 また、室内野球場については、大館市内にあるドームのようなものだと思うが、プロ野球を呼べるようなドームではない。建設費用はほぼ秋田県が負担したと聞いているが、維持費の負担が大きく大変のようだ。岩手県内では盛岡市営球場を本宮に移すという構想があり、これは岩手県がお金を出すということだが、県は東日本大震災などがあり財政に余裕がなく、ドームのような球場には出来ないと思う。
12	H29.9.26	市政懇談会	花南	商工観光部	観光課	桜町の同心屋敷について	桜町の同心屋敷の茅葺き屋根を新たに掛け替えていただいたが、その後は一度も家屋に薪を焚きいぶしていない。長持ちさせるために年に1回、2回と家屋に薪を焚いていぶして、同心屋敷を長持ちさせるように検討いただきたい。	その旨、担当に伝える。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
13	H29.9.26	市政懇談会	花南	建設部	都市政策課	賢治記念館周辺を花巻市の中心拠点と位置付けることについて	立地適正化計画では中心拠点を花巻駅と考えているが、位置的、文化的な面からみれば、賢治記念館や博物館周辺が中心拠点とも捉えられる。国の支援はないと思うが、賢治記念館、博物館周辺は空き地も多くあり、花巻駅とは別にもう一つの中心拠点になるのではないかと思うがいかがか。	花巻市の人口が増加していれば、そういった可能性も考えられるが、現在は人口が減少しており、本来の中心地以外に中心拠点を持つと他の場所が衰えることも考えられる。また、新花巻駅周辺の土地はほぼ所有者がいるため、市で自由に使うことはできない。今、新花巻駅周辺を有料駐車場にしようとしているが、新花巻駅は盛岡以南では1番目が2番目に乗降客が少なく、このまま何も対策をせず利用者が減っていくと新幹線が停まらなくなってしまう可能性も出てくる。そこで、駐車料金をなるべく安く設定して、新花巻駅の利用促進を図ろうと考えている。駐車料金が安いと、沿岸や盛岡の方も新花巻駅を利用するという動きも出てきている。
1	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部 大迫総合支所	都市政策課 大迫総合支所地 域振興課	公共交通機関の充実について①	自家用車の運転ができない者にとっては、デマンド制度はありがたい。しかし、大迫町内では用が足せないという実情から、行き先を石鳥谷までにしていただきたい。亀ヶ森地区の実情にあった実施ができないものか伺いたい。	岩手県交通㈱が運行する支線バス5路線については、同社より、平成30年度に廃止したいとの申し出を受けている。それを受けて、市では平成30年10月から、石鳥谷、東和地域と同様の予約応答型乗合交通「予約乗合バス」デマンドを導入することに向け、現在準備をすすめている。 なお、これまでの地域説明会でもお話ししてとおり、この予約乗合バスは支線バスがなくなる代わりに地域内移動の足の確保を目的としているもので、他地域との地域間移動については、幹線バス路線をご利用いただきたいと考えており、予約乗合バスでの移動は考えていない。
2	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部 大迫総合支所	都市政策課 大迫総合支所地 域振興課	公共交通機関の充実について②	大迫町から町外への通学や、大迫町外から大迫高校へ通学する生徒がいることから、例えば、「朝夕に限り新花巻駅経由」を「花巻農業高校前経由花巻空港駅」にするなど、公共バスの運行経路や時刻を再考できないか伺いたい。	通勤・通学の足の確保において、現在の大迫花巻線の経路変更をすることについては、合併時に、市の中心部と乗り換えなしで直結することを目的として運行する約束の路線であるため、現時点では経路変更は難しいと考える。一方で、同線の料金や便数の改善をしてほしいとの声があることから来年度以降に改善する方策を現在検討中である。 大迫高校生生徒数75人のうち、大迫地域以外から通学している生徒は40人。そのうち、花巻方面からの生徒27人は通学タクシーを利用し、それ以外の生徒は自分で自転車通学か、親御さんが送迎しているようだ。通学タクシーは、利用生徒に合わせて3ルートで運行されているので、大迫高校の生徒が常時バスを使用することはないとお聞きしている。
3	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部	都市政策課	公共交通機関の充実について③	先ほど、乗り換えなしで市中心部へ直結することが合併当初の約束だったとの話が出たが、合併からもう10年以上経っている。その中で状況というのは変わってきていると思うので、改善をお願いします。 また、利便性等の改善方策を来年以降に検討する話もあったが、ある程度明確な期限を決め、いつまでに、というお話をいただければありがたい。	大迫から花巻間については「時間がかかる」という話もあり、停車場をもうすこし少なくして欲しいといった逆の意見もある。私どもとすると、今の路線については現状維持で継続するつもりで考えている。 岩手県交通は大変経営が厳しい状況で、赤字のバス路線の相当分が負担となっている。バスの運転士も定年退職で、再雇用しているが減少している状況である。今後の話として、オンデマンドを作っても登録した人しか利用できないため、大迫石鳥谷線、大迫花巻線どちらも残さなければいけないと考える。大迫花巻線については、もうすこし乗降客が増えるような施策を考えないといけないというのが先ほどの建設部長の話であり、必ずしも路線を増やすとかの話ではない。先ほど、オンデマンド交通を亀ヶ森から石鳥谷まで延ばして欲しいとの話があったが、石鳥谷の予約乗合バスを亀ヶ森まで延ばすということが可能かもしれない。けれども、それをやってしまうと、大迫石鳥谷線のバス路線が無くなる可能性があるため、今後話し合ってお相談させていただきたいと思う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部	都市政策課	公共交通の廃止について	大迫には鉄道がない代わりに、バス、公共交通がある。そのために、逆にオンデマンドを行うにあたってネックになっているのではないかと。公共交通をなくしてしまった方がいいのではないかと。今の大迫石鳥谷線1路線が残ることにより、オンデマンドが走れない。花巻市では、スクールバスと路線バスへ相当量の補助金を出していると思う。これからも当然スクールバスは運行しなければならないし、ゆくゆくは小学校も統合ということが出てくるかもしれない。そうした場合には、同じお金を使うのであれば、タクシー会社を使い、その補助金を財源にオンデマンドを使えば、もう少し皆さんが使いやすい公共交通機関ができるのではないかと。	その方がいいのであればその手もある。ただ、本当にそれでいいのかということである。大迫に来る人が、来れなくなってしまう。ご意見は分かったが、もう少し時間をかけて皆さんと話し合っていく必要があると思う。
5	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部 大迫総合支所	都市政策課 大迫総合支所地域振興課	高校生の通学手段について	高校の通学の関係で、バスはほとんど使っていないとの話であったが、大迫バスターミナルよりも大迫高校の近くにバス停留所があれば、花巻のほうからも利便性があるということで、乗り合いタクシーと併せて、県交通のバスも利用するのではないかと。大迫保育園の付近にバス停があるので、県立病院付属診療センターから迂回してそれを利用できないかと。	今までは、スクールタクシーでの輸送ということで、現在20数名が利用している現状である。花巻大迫線は、岩手中部病院前発が午前9時であるため、花巻から直接大迫に行くバスには高校生が乗っても間に合わない。また、石鳥谷大迫線は石鳥谷駅発午前7時25分が現在あるが、高校に近いバス停留所を検討しても、常時石鳥谷から利用する高校生はないと考える。
6	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部	都市政策課	オンデマンドの範囲について	デマンド制度は地区内というお話であったが、大迫では用が足せない。鉄道が通っている地区までを考えていただきたいということ意見をとして申し上げる。	回答なし
7	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	地域振興部 大迫総合支所	地域づくり課 大迫総合支所地域振興課	地域づくりへの支援について	今後も、コミュニティ会議でワークショップや研修会等を行っていきたい。これらを実施するにあたり、内容の工夫すべき点の指導や、講師であるファシリテーター等の紹介、派遣をお願いしたいと考えるが、その支援策についてお伺いしたい。	地域の方々の意見を聞く手法として、市ではワークショップを広げたいと考えている。ワークショップにおけるファシリテーターは進行役であり、このファシリテーターを育成、養成するため、市では今年度7～9月までコミュニティ会議の方々や市職員等が参加する形で合計38名が参加し、『協働のまちづくりファシリテーション研修会』を行った。亀ヶ森地区コミュニティ会議からも1名参加いただいた。この研修は、来年度以降も実施を予定しており、より多くの方々に参加していただき、手法を身につけ実践していただきたいと考えている。今回、このワークショップの関係をよりスキルアップしたいとお話であるので、その件については、担当がこちらであれば大迫総合支所地域支援室となる。様々な照会、相談には本庁でも対応するので、まずは地域支援室へご相談いただきたい。
8	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	市民生活部	市民生活総合相談センター	高齢者の交通事故防止への対策について	高齢者の交通事故のニュースをよく聞く。免許のある方は、田舎ほど高齢であっても運転の方が便利であり、生活に欠かせないものとなっている。そこで、例えば、安全性能が装備された乗用車や軽自動車等が出てきているが、高齢の方々が事故率が高い方々にそういう車を使ってもらえれば事故も減るのではないかと。そういう装備がついて少し価格が高くなった部分を市で補助を出してはどうか。	その補助の部分を誰が負担するかということになる。花巻市では65歳以上が30%を占めている。若い人達はその分を負担できるのかどうか。仮に、補助対象となる方の割合が20%いるとすれば、働いている人達は60%くらいになる。その60%の働いている若い人達が、20%の人達の安全装備がついて高くなった部分を負担するとすると、ちょっと酷だと思われるし無理だと思う。ただ、免許に関して言えば、国では、高齢者については安全性能が装備された車だけの運転を限定する免許の検討に入っているようで、安全を確保する対策は考えているようである。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
9	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部	道路課	水害対策について	<p>神貴川沿いに、非常に危険な箇所がある。三区、横枕橋、小学校の反対側等、市道の方まで低いところがあり、堤防のないところもある。非常に危険だと思うので検討していただきたい。この前の豪雨の時には、五区の大沢山のほうでも崖崩れが発生した。諏訪沢森の裏のところも危険な箇所である。それから、野球場のところから上がっていく鶴尾地区も道路が壊れて行けない状態となった。それともう一つ、七区の観音坂といっているところの坂を下ったところを鉄砲水が走って被害があったときいている。水害の対策については喫緊の課題だと思うので検討をお願いしたい。</p>	<p>堤防がない、あるいは堤防の機能はあっても低いところがある。過去に、その箇所の水位が超えたことがないため、県側でも整備していないところであるが、支所の建設担当ともよく話をしているところである。現地を確認し、必要であれば県とも相談をしていく。お話の箇所は県への要望として項目に入っていないので、その箇所についても必要性を建設部と協議し進めていく。なお、先ほどの話の中で、五区の崖崩れとかそのほかの部分については、今年度発生したのではないと思われる。今年度の災害については、直すことで地権者の方と話を進めており、市でも定期的な見回り等も行っているが、危険箇所については早めに察知していく体制を取り、各地の行政区長からの情報も伺っていく。</p> <p>ここは堤防の要望が入っていないと思う。県が行うとなると、県は今財政難であるため、なかなか出来ないのが実態だと思う。北上川は、日本の大河川の中で一番堤防が遅れている。この前の8月23日、24日に、石鳥谷の八重畑と新堀で40ha以上の水田が水に浸かった。まずはあそこの堤防を造らないと人家もあるので大変である。支流の堤防にお金が回ってくるのは可能だとしても相当時間がかかる。やはりそうすると、ソフト、さきほどの「避難」ということをやっていたらいいかならないと考える。</p>
10	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部	道路課	道路の改善について	<p>裏側の通りになるが、七区の観音坂といっているところ、六区の三日市に上がるところなど、少し広くなったがカーブがきつくて見通しが悪い。もう少し広げるなどしてもらいたかった。その先をずっと小学校まで来るとカーブが続き、横枕橋を行ったときの突き当りのT字路も崖が邪魔になっていて、もう少し削ってもらえればいいと思う。さらに、このあたりでは赤井森と言っている紫波町に抜ける道路があるが、かなり狭い部分があるので道路改善もお願いしたい。</p>	<p>幹線道路については、行政区長からいろいろ要望をお聞きし、優先順位をつけて行っている。今のお話の箇所が要望に入っているかどうか、確認が必要なので、持ち帰って点検させていただく。</p> <p>道路に関して言えば、昨年からであるが、大迫地域に対しても新着工している。出していたいた要望に対し、どこを優先的に行うかというのは、建設部の方で基準をつけて決めている。さっきお話しされたことも要望していただき、新規にどこまでできるかを検討する。300箇所の要望が出ている。希望どおりにすぐ出来るわけではないが、やろうとしているのでよろしく願います。</p>
11	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	総合政策部 大迫総合支所	防災危機管理課 大迫総合支所地域振興課	避難所の受け入れ態勢について	<p>この間、避難準備・高齢者等避難開始があり、亀ヶ森振興センターに避難しなさいとの指示があったが、地区の全員が集まったときは対応ができるのか。私は避難しなかったので、どういう状況であったかをお知らせしていただきたい。</p>	<p>先日の台風18号の際、大迫地域は4つの避難所へ合計16名が避難したが、そのうち亀ヶ森地区では2名、一人暮らしの高齢の方が避難されたとお聞きしている。ここに、亀ヶ森地区の方全員が避難する最悪の事態は想定していない。非常食の準備等も、今のところは全体の方までは用意していない状況である。</p> <p>亀ヶ森の全員が逃げるような災害はないと思われる。怖いのは土砂災害であるが、それでも、安全な場所も多い。崖の近くの人達は逃げなければいけないが、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告等を発令する際は、大迫の「亀ヶ森」・「外川目」と地区でお知らせできるようになり、その際は「土砂災害での避難」と通知されるので、土砂災害に関係のない方は逃げていただく必要がないので、多分全員がこの避難所に入ってくるということはない。ただ、ここがいいのは、避難準備等の発令が出ると市役所職員が必ずここに来るので対応できること、食料や毛布の準備をしているということ。必要であれば食料で協定を結んでいるところから用意してもらえ、赤ちゃんのおむつなども用意できる。一番食料の心配がない。</p> <p>この前は明け方に大雨が降る可能性があったので、夕方5時に避難準備・高齢者等避難開始を発令した。そうすると比較的早く避難してもらえるので、危ないと思う方、あるいは時間のかかる方は、早めにここに避難していただきたい。そのあたりも訓練で徹底していただきたい。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
12	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	総合政策部	防災危機管理課	防災無線について	この間の北朝鮮のミサイル発射の時、ちょうど屋外にいたので防災無線が聞こえたが、普段は聞き取りにくく、屋内にいれば聞こえない。防災のスピーカー等を増やしていただけないか。	防災無線はJアラートと連携しており、その音声は市でしゃべっているものではなく、全国へ向け発信されたものを流している。支所へも「音声が高い」とのご意見をいただいている。その件については、防災危機管理課へも情報をつないでおり、もう少し高い音声にならないか検討している。 専門業者により、設定状況を確認する。 防災無線は、雨が降ると聞こえない。花巻市内で防災行政無線があるのは大迫地域だけである。東和は有線放送があるが、花巻、石鳥谷はない。ではどうしているかという、Jアラートはあるがあとは災害用の防災ラジオを、土砂災害特別警戒区域のお宅には配っているが、電源が入っていれば自動起動し、防災無線よりはっきり聞こえる。配布対象になっていない人にも、1万円のところを5千円で購入できるようになっているので、購入していただきたい。そういうものを利用していただきたい。
13	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	総合政策部	防災危機管理課	避難所施設内の整備について	要望である。家には93歳の母がおり、先日の避難準備・高齢者等避難開始が出た際、避難所である振興センターへは、ベッドが無いこと、トイレが狭く自分で使えない、との理由で避難しなかった。指定緊急避難所へ避難が出来ない場合、地元の自主防災会では、班ごとにそれぞれ独自に集まる場所を決めているが、この振興センターに避難するとなった場合、そういったベッドとかトイレの問題等を考えていただければ助かると思う。	直ぐというわけにはいかないが、段ボールでベッドを作る場所もある。そういう手当が出来ればいい。検討したい。それから、使いやすいトイレは必要なので、少しずつ対応していかねばならないと考える。(→支所へ防災危機管理課と打合せするよう指示。) →支所より、防災危機管理課へ確認。現在、花巻市において段ボールベッドの備蓄はないため、指定緊急避難所へ避難される高齢者等の現状を考慮し、平成29年度から、段ボールベッドを購入し、順次、各支所に配備していく。 先ほど、班ごとにそれぞれが独自に避難場所を決め避難する話があったが、皆さんに配布しているハザードマップにも、いざというとき避難する場所を記入するところがあるので活用してほしい。また、高齢の方であれば、現在、花巻市では要支援者名簿を作成しているところであり、本人から同意をもらえれば自主防災会へ情報提供し、いざというときその人を手伝ってどこに逃げるか決めてもらうよう取り組んでいるところである。
14	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	総合政策部 大迫総合支所	防災危機管理課 大迫総合支所地域振興課	用水への雨水の流入について	災害の話が出たが、実はこの山沿いに用水があり、雨がたくさん降るとオーバーフローの状態になる。なぜかという、あそこに野田葡萄園を作っており、今まで山だったところを平らにして、その水が一か所から流れ込んでくる状態に設置されている。その続きにもう一ヶ所また葡萄畑を作る計画のようだが、そうなると用水の限度を超えてしまう。先ほど、市長はここは被害がない、と言ったが、99%山の水がその用水に流れ込み氾濫する。そうなると、この振興センターは避難所にはならない。そういう現状になっているので、そのあたりをぜひ考えていただきたい。	用水の話は全然知らなかったので調べるようにする。必要な対策を取らなければならない。 →大迫総合支所長へ、状況確認等するよう指示。
15	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	農林部 大迫総合支所	農政課 大迫総合支所地域振興課	葡萄の糖度計整備について	いま大迫でもシャインマスカット等盛んに作っているが、糖度を図るためにシャインマスカットから一粒取ると売り物にならなくなる。そこで、電波で図る糖度計があるが、30万円以上する機械なので個人では誰も購入できない。みんなです使えるよう、どこかで整備してくれないか。	電波のその機械の購入は、一台で間に合うのか。皆さんが行って測ればよいのか。それならできると思う。 →大迫総合支所長へ、検討するよう指示。
16	H29.9.29	市政懇談会 (H29)	亀ヶ森	建設部 大迫総合支所	道路課 大迫総合支所地域振興課	赤井森線の除雪について	先ほどの道路の件でお話のあった赤井森線については、道路幅が狭く、冬になると上がれない車もいる。早く除雪をお願いしたい。	赤井森線は除雪対象になっている。時間帯が遅いと指摘だと思うが、亀ヶ森地区の除雪は亀ヶ森1号線を優先しており、赤井森線だけの除雪を早くということは対応出来かねる。 なお、道路幅が狭いことについては、その整備について行政区長から意見を伺う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	商工観光部 教育部	商工労政課 こども課	人口減少対策における雇用 環境及び子育て支援につい て	花巻市がどうしたら人口が増えるのかという人口減少についての意見 がでたがその中で多かったのは、若い人達が地元に残って仕事ができ るような会社を増やしてほしいということだった。高校・大学を卒業しても 地元になかなか就職先がないということが一因ではあると思う。これら の雇用の状況や子育て支援も含めて市の考えをお聞きしたい。	現在、花巻市については、就職先が多い状況になっている。理由としては、花巻 市内の高校を卒業して就職する高校生のうち約80%は、県内で就職するなど他の 地域と比べて地元志向が強いことから、市内の求人倍率が今年に入り1.6～1.8で推 移しており人手不足の状況であることから、高校生が花巻に就職をしたいのであれ ば就職できる状況になっているため企業側からは、給料を上げないと求人に応募 がない、正社員でもなかなか応募がないという声が出てきており、特に地場産業に については非常に困っている状況と伺っている。 あとは、花巻の工場を増設したいが、雇用が確保されないと増設できないといっ ている企業も出てきているという状況。花巻から岩手大学や県立大学に入る高校 生も多いが、県外の大学に行った学生は、なかなか地元に戻り就職する方が少な い。理由は、大卒者に対して適切な仕事はまだ少ないため。この前、トヨタ自動車 東日本機工場長から伺ったが、同社の金ケ崎工場で働いている約4,500人の従業 員や岩手中部(金ケ崎)工業団地への立地企業の従業員のうち800人程が花巻を 含む金ケ崎町以北の自治体から通っているとのこと。また、トヨタ系部品メーカ ーの岩手工場の社長とも話をしたが、この企業ではこれまで大卒の学生を定期的 に採用はしていなかったが、1年前から2、3名程中途採用を始めたとのこと。なぜこれ まで大卒者の採用をしてこなかったのかと伺ったところ、開発や研究部門の職員は、 すべて愛知県に集約しており、金ケ崎町の工場は、組み立てをすることが主である ため大卒者の仕事はなかなか無いとのこと、その他の企業においても、大卒者 の求人はあまり多くはない。このような状況の中で、大卒者の仕事を増やしていく ためには、花巻市内に本社のある地場企業を育てていくことが重要と考えている。 また、市では国から9,300万円程の交付金をもらい賃貸工場を整備し、来年の3月 には完成する予定。市内の工業団地は、ほぼ売り切れているため、誘致するにも適 した場所がない状況。まずは、短期的な対策として昨年に4ha未満の農転許可を市で 行うことが可能となったことから、これを活用して、来年度農振以外の地域で工業 団地を造るため農地を取得することも考えており、少しずつではあるが雇用環境の 整備を図っていききたい。 子育てについては、保育園の支援など様々行っているが、現在、市内の待機児 童は60人程いる状況。市では、保育士の資格をもっている方が職場復帰しやすくな るよう研修を実施するなどの支援を行っている。また、市内では特に0～3歳児を受 け入れる保育園が不足しているため小規模保育園を増やすことで話を進めてい る。医療費の助成については、更に拡充することを考えている。
2	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	地域振興部	定住推進課	人口減少対策における結婚 支援対策について	独身が多いといった意見があり、市でも色々対策はしているようだが男 女の出会いの機会が少ないことも一因ではないかと考えるが、結婚支 援対策についても考えをお聞きしたい。	結婚支援については、花巻市内の中で出会いを作ろうとしても、なか なかうまくいかない。一関市では、宮城県登米市と栗原市、平泉町と連 携して婚活イベントを実施しており成果が出ていっていると伺っており、この ような取り組みも参考としたい。また、岩手県等が運営する「いきいき岩手 結婚サポートセンター(サポ)」は、これまでは盛岡市と宮古市のみに開 設されていたが、花巻市を含め県南の自治体に住む会員等が利用しや すいようにと、平成29年10月1日より奥州市にも「サポ奥州」として開設 されることになったことから、これらとも連携しながら、支援していき たい。
3	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	健康福祉部	長寿福祉課	これからの介護について	介護施設は、今新しいのも出来ているが、足りなくなってくるのではない か。そして、施設があっても介護士の人材が不足するのではないかと いう心配が大きいという話が出た。また、施設の話だけではなく、自宅で 長く寝たきりで過ごしている方もおり大変という話も出た。 今、市内の他の地域で始まった介護予防・日常生活支援総合事業 (総合事業)の住民ボランティアを希望する人は講習を受けなければな らず人材育成が必要になるがどうしたらよいのかという話も出た。これ からの介護について市の考えをお聞きしたい。	介護については、先ほどお話しただけであり、市内ではまだ施設 が不足していることから、小規模介護施設を造るということで、市でも支 援しながら進めていきたい。また、市では、介護予防・日常生活支援 総合事業(総合事業)を今年の4月から開始しているが、対象となるサービ スは買い物や掃除、ゴミ出しなどの体に触れない簡易な支援。住民ボラ ンティアを希望する方は、8時間の養成研修で支援に要する知識を学ん だ後、従事いただく。介護保険からボランティア組織へ一時間当たり 1,200円程支払うので個人へも900円程は入るためアルバイトとして も悪くはない。このサービスの利用者もまだ少ない状況ではあるが少し ずつ増えてきている。介護保険特別会計の決算額は100億円超だが、 65歳以上の第1号被保険者に負担いただいている介護保険料は20億 円程、40歳以上の負担も同程度で国からも多くのお金がきているほか、 一般会計からも相当額を繰り入れしている。市も財源が限られており、 国も同様に財政が大変厳しい中で、介護保険を維持していくためにも地 域で助け合いもしながらやっていかなければならないのが現実の問題と してあると思う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	健康福祉部	長寿福祉課	地域の高齢化について	太田地域でも老老介護や、独居老人の方が多くなっている。また、農事組合法人を組織したが担い手の多くが70代を迎えており、次の世代が入ってきてくれないためにその農事組合法人もこの先どうなっていくのか等の不安の意見が多くあったが地域の高齢化についての考えをお聞きしたい。	早稲田大学の調査によると、埼玉県本庄市で農業に従事している高齢者と従事していない高齢者の平均寿命を調査したところ、女性はあまり差はないが、男性の場合、農業に従事している高齢者の方が平均で8歳程長寿との結果が出たとのこと。定年退職後に特に何もしていないと衰えるのが早いようだ。皆さんの多くは農業に従事されている方だと思うが、地域の方々とふれあいながら、農業に従事することも健康で長生きするためにはとても大切なことだと思う。 また、後期高齢特別会計の予算は18億円程だが、75歳以上の高齢者に負担いただいているのは数億円程で、市の一般会計から10億円程繰り入れしている状況。介護保険と同様に、市の財源は限られている中で相当額を一般会計から負担している。今後も高齢者は増え続けていくことが見込まれている中で、高齢者へのサービスを更に拡充することは、若い世代への負担が大きくなるためなかなか難しいという状況である。
5	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	総合政策部	防災危機管理課	防災対策について	防災無線を導入することについて、お聞きしたい。最近、北朝鮮のミサイル問題もあってJアラートが頻繁に鳴るがどうしていいかわからない。また、太田地区は最近特に熊が出没するが、その際に瞬時に伝える事ができるシステムがないことから防災無線を整備していただけると良いという意見があった。このことから防災対策について市の考えをお聞きしたい。	花巻地域の防災情報は、FMIはなまきで伝えるということで約8億円(うち防災情報に関するもの約1億3千万円)の予算をかけて整備を行った。仮に、太田地域に防災無線を整備するとなると、太田地区だけではなく、旧花巻地域と石鳥谷地域も整備する必要があり膨大なお金がかかるが見込まれ、これまでにFMIはなまきを整備するために使った予算はなんだったのかということになる。したがって防災無線を整備する予定はない。市内でみると東和地域では有線が使われている。大迫地域は、合併前に整備された防災無線があるが、風向きや大雨等天候によっては聞こえない地域も多い。このため不満の声も多く寄せられているが、膨大な予算が必要のため難しいと説明している。先日の大雨の際、大迫地域に「避難準備・高齢者等避難開始」を発令したが、防災無線が聞こえない地域の方に対して、市から防災ラジオを無償で貸与している。防災ラジオは市が避難情報を発令すると自動起動で避難情報を聞くことができる。防災ラジオは1万円するが、希望者には半額を補助しており、5,000円負担いただくが在庫はまだある状況。防災情報や熊の出没などの情報も流しているの必要な方は購入をしていただきたい。よって、新たに防災無線を整備するために膨大なお金をかけるよりも、自動起動の防災ラジオ等を使ってもらうことで必要な情報を得ていただきたいと考えている。
6	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	建設部	都市政策課	市の公共交通の取り組みについて	高齢化が進んおり太田地区は路線バスも随分前に無くなった。笹間線はバスが通っているが、太田は例えば高村山荘に行くにしても、公共交通がない。費用対効果の問題もあり難しいところもあると思うが、住民福祉の観点から公共交通を復活させてもらえないものかという話が出た。公共交通が無くなると交通の足がない高齢者はどこにも出かけられないという問題やこのような高齢者が更に増えていくと限界集落のような地域になるのではないかという事で、公共交通について市の取り組みや考え方についてお聞きしたい	市では、予約乗合バスの導入を進めている。これは、当日利用する際に1時間前に連絡すると自宅近くの市道前まで乗り合いタクシーが迎えにくるもので、週に3日(月・水・金曜日)利用時間は午前8時から午後5時までとなっている。今年の2月から石鳥谷地域で導入し、利用者はまだ、一日当たり40人程度と少ないが、足のない方の移動手段を確保するためには必要であると思っている。10月からは東和地域でも同様に導入され、おそらく来年10月には、大迫地域でも始まる見込みで地域住民に対して説明をしているところ。今後は、他の地域でも導入していくことになると思うが、バス路線が運行となっている地域では導入することが難しい。笹間地区はおそらくバス路線が廃止となる見通しで、他の地区でも同様の動きが始めている。このシステムを市内全域で導入するとなると相当額の予算が必要となるが今のバスよりは遥かに利便性が良いため足のない高齢者のためにも進めていきたい。太田地区は、養護学校までバスが運行されているが、岩手県交通では今のところ廃止の予定はないと伺っており、もう少し様子を見ながら対応策を考えていかなければならないと思っている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
7	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	建設部	建築住宅課	災害公営住宅の建設について(その他意見)	なぜ災害公営住宅を花巻市に造るのか。	東日本大震災により内陸に避難し、みなし仮設住宅に住み続けている被災者が相当数あったが、平成27年10月より岩手県から花巻市に整備の打診があり、復興庁、岩手県と整備の検討を進めてきた。 整備場所として、被災者の利便性を最大限考慮し、上町及び仲町の民間遊休地を選定した。災害公営住宅整備に要する費用について、復興交付金(基幹事業7/8、効果促進事業4/5・・・駐車場舗装工事や、集会場整備費など)を活用。なお災害公営住宅整備に含まれない、店舗整備及び地域優良賃貸住宅整備は、市単独費で整備していく。 今後の計画として、平成30年3月に工事着手、平成31年3月に建物及び外構工事を完成させ、4月には入居を開始する予定。整備内容は、上町側に住宅9戸及び店舗として4階建建物1棟、及び集会所を整備。仲町側には住宅21戸3階建1棟を整備。必要な駐車場も合わせて整備する。現時点で総事業費約13.7億円、うち国費として9.8億円、市負担3.9億円の見込み。 災害公営住宅とは別に子育て世帯を優先した地域優良賃貸住宅を建設することにより、上町、仲町地域において子供の声が聞こえるまちづくりを進めることで、街中に魅力を作り、住んでもらう方を増やしていきたいと考えている。
8	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	消防本部	消防本部総務課	消防団員の確保対策について(その他意見)	消防団員の確保対策についてお聞きしたい。	消防団員のなり手の問題は全国的な問題であり、人口の減少や就業構造の変化から難しい状況。花巻市では、平成28年11月に部長、班長を対象としたアンケートを実施し、結果を、平成29年2月27日の「花巻市消防団組織等見直し委員会」において報告し、現在抱える問題点、今後の進め方について検討した。今後の進め方として、4地域ごとに消防団の現状と課題を地域で説明し、将来を見据えた地域の構想を地域ごとに検討し、団員と地元の方々がお互い現状を理解したうえで地域構想を持ち寄り再編計画案を作成する。 団員の定数の見直し、機能別消防団員の構成割合等についても引き続き協議を進めている。 また、消防団組織等見直し委員会においても、団員が活動しやすい環境づくりや行事のあり方についても協議を行っている。一度に環境を変えることは難しいことから、可能なことを少しずつ進めている。
9	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	農林部	農政課	平成30年度以降の米の生産調整について(その他意見)	平成30年度以降の米の生産調整の在り方について市の考えをお聞きたい。	国では、米政策の見直しの一環として、平成30年以降、主食用米の生産数量目標の配分を廃止することを決定した。このことを受け、各県の農業再生協議会は、国から提供される主食用米の需給見通し等の情報を参考に需要に応じた主食用米の生産に取り組むこととなったところだが、岩手県農業再生協議会では、これまでの生産数量目標に代わる県と市町村別の生産目安を設定することとしたところである。本市においては、花巻市農業推進協議会が岩手県農業再生協議会から提供される生産目安を参考に認定方針作成者ごとの生産目安を設定し、認定方針作成者は、花巻市農業推進協議会から提供される生産目安を参考に参画農家ごとの生産目安を設定することとしたところである。
10	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	建設部	建築住宅課	市の空き家対策について(その他意見)	行政区内には、空き家が多く、ハクビシンやイタチ等の小型鳥獣も入っている空き家も多くあるが、市では空き家対策を今後どのように考えているのか。	空き家の管理は、所有者が行うことが原則であり、市が所有者に無断で処理することはできない。市では、平成24年から空き家の現状について調査を行っており、今後適切な管理を要するところには、所有者に対し文書で通知し適切な管理を促すこととしている。平成27年に空家法が改正され、危険性が高い空き家については、特定空家等に指定し、法に基づく助言、指導、勧告を行うこととされた。当市においても、今後専門家に確認をいただき特定空家等を指定する予定。 また、空き家の適正管理を目的に、市ではシルバー人材センターと協定を締結し、空き家等所有者から相談を受けた場合に同センターが行う空き家管理業務を紹介することとしている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
11	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	総合政策部	防災危機管理課	豊沢川の降雨時の災害対策について(その他意見)	豊沢川の降雨に対する災害対策についてお聞きしたい。	<p>市は、大雨などにより北上川の氾濫等被害が予想される場合、まずは、避難を呼びかけている。北上川の水位の基準観測所は朝日橋となっており、水位が5.0mとなると避難準備・高齢者等避難開始を発令する基準としているが、朝日橋の水位だけではなく他の地域の状況や情報も加味して早めの避難行動をとるように呼びかけている。</p> <p>また、避難情報については、まず自主防災組織への電話連絡をしており、市民に対しては、エリアメール、えふえむ花巻、広報車、ホームページ等複数の手段により伝達することとしている。また、平成28年4月から、NHKテレビ放送のデータ放送(dボタン)でも避難情報の確認が可能となった。この内容は、平成28年9月1日号や平成29年6月15日号の「広報はなまき」に掲載している。このように様々な手段により避難情報の周知に努めることとしている。</p> <p>日頃からの取り組みだが、当市は水害が多いと捉えており、市ではハザードマップを作成し一昨年に全戸配布している。これにより、日頃から危険個所を把握し避難場所の確認をして避難経路についても複数のルートを想定して考えていただきたい。また、地域の取り組みとしては自主防災組織における防災訓練の実施、市が開催している出前講座による防災講話を通じて地域住民の防災意識の啓発が大切と考えている。</p>
12	H29.9.22	市政懇談会 (ワークショップ形式)	太田	建設部	道路課	太田・笹間地区への道の駅の整備について(その他意見)	道の駅を実現してほしい。 道の駅を早く作って、活性化をはかってほしい。	<p>28年度は、道の駅整備検討委員会や西南地域振興協議会と共に検討会を開催し県等関係機関の協力を得ながら平成29年3月に基本構想を策定。29年度は基本設計を策定することで、既に土木基本設計は業者へ委託しており、建築基本設計につきましても委託することで準備を進めている。</p> <p>また、28年度から引き続き道の駅検討委員会を開催し意見をいただくとともに、西南地区振興協議会や地域の方々と協議を行い、県や国等関係機関の協力を得ながら事業の推進を図っている。</p> <p>今後の予定は、平成30年度に実施設計、平成31年度以降は土木工事、建築工事を行う予定としているが、道路管理者である岩手県と当市において一体的に整備を進めることから、県と連携を図り早期に整備が図られるよう努めていく。</p>

※太田地区の項目(7～12)につきましては、当日市から回答しなかった項目の主な意見について市の現状・取り組み状況等について取りまとめしたものです。